

令和5年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

港湾振興課

1 施設の概要等

施設名	広島観音マリーナ		
所在地	広島市西区観音新町四丁目		
設置目的	海洋性スポーツの振興及びレクリエーション活動の普及		
施設・設備	マリーナ施設(艇置施設、上下架施設、駐車場等)		
指定管理者	4期目	H28. 4. 1～R8. 3. 31	(株)ひろしま港湾管理センター
	3期目	H26. 4. 1～H28. 3. 31	(株)ひろしま港湾管理センター
	2期目	H21. 4. 1～H26. 3. 31	(株)ひろしま港湾管理センター
	1期目	H18. 4. 1～H21. 3. 31	(株)ひろしま港湾管理センター

2 施設利用状況

利用状況	年度	収容可能艇数	目標値 [事業計画]	艇置数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4期	R5	577艇	290艇	256艇	△17艇
R4		577艇	295艇	273艇	△17艇	△22艇(92.5%)
R3		577艇	280艇	290艇	15艇	10艇(103.6%)
R2		577艇	285艇	275艇	△1艇	△10艇(96.5%)
R1		577艇	285艇	276艇	1艇	△9艇(96.8%)
H30		577艇	287艇	275艇	0艇	△12艇(95.8%)
H29		577艇	288艇	275艇	5艇	△13艇(95.5%)
H28		577艇	283艇	270艇	△9艇	△13艇(95.4%)
3期平均26～27		577艇	278艇	279艇	△8艇	1艇(100.4%)
2期平均21～25		577艇	296艇	287艇	△41艇	△9艇(97.0%)
1期平均18～20	577艇	—	328艇	9艇	—	
17(導入前)	577艇	—	319艇	—	—	
増減理由	低未利用であったディンギーヨットが退艇したため艇置数が減少。					

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	オーナー等やクルージングコンシェルジュ業務を通じて意見を徴収	オーナー対象・述べ人数：約150人 広島県セーリング連盟の役員等：約20人
	【主な意見】	【その対応状況】
	パワーポストの漏電、電源不具合、救命はしごの増設など利便性の向上の他、大型艇の契約に関する問い合わせが多い。	危険箇所等については、緊急修繕に努めた。R4年度より県と共有している改修優先順位の上位は早急な改修が必要である。 大型艇についても、艇置可能区画を調整して受入に努めたが、陸上施設は不足している。

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書、損益決算書、修繕実績報告書、行事实績報告書
	月報	○ プレジャーボート収容状況報告等
	日報(必要随時)	○ 苦情、トラブル等について随時報告
管理運営定例会議(毎月)	【特記事項等】 海上の安全航行のために、マリン業界、広島県水難救済会及び海上保安庁との連携による航行安全活動及びレスキュー活動を広島観音マリーナが中心となって取り組んだ。 【指定管理者の意見】 施設が老朽化しているため、R4年度より県と共有している改修優先順位の上位は早急な改修が必要である。 【県の対応】 施設の老朽化対策について、指定管理者と連携し、今後の修繕箇所について調整を行う。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	4期	R5	0		0	料金 収入 (決算額)	4期	R5
R4			0	0	R4	127,156			△459
R3			0	0	R3	127,615			11,385
R2			0	0	R2	116,230			△2,579
R1			0	0	R1	118,809			△1,726
H30			0	0	H30	120,535			△1,116
H29			0	0	H29	121,651			5,925
H28			0	0	H28	115,726			4,195
3期平均26~27		0	0	3期平均26~27	111,531	12,028			
2期平均21~25		0	0	2期平均21~25	99,503	△23,752			
1期平均18~20		0	0	1期平均18~20	123,255	11,473			
17(導入前)		0	—	17(導入前)	111,782	—			

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R5 決算額	R4 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	0	0	0	
		料金収入(※1)	124,395	127,156	△2,761	年度初め海上保管艇置数の減
		その他収入	394,908	227,195	167,713	県からの棧橋修繕委託料の増
		計(A)	519,303	354,351	164,952	
	支出	人件費	42,582	48,406	△5,824	人員減
		光熱水費	10,343	12,122	△1,779	空調機器の仕様変更による減
		設備等保守点検費	3,011	2,140	871	クレーン修理の増
		清掃・警備費等	332,405	156,815	175,590	棧橋修繕業務の増
		施設維持修繕費	23,550	20,455	3,095	緊急修繕費の増
		事務局費	75,754	77,327	△1,573	広告宣伝費の減
		その他	55,747	37,951	17,796	固定資産(大型艇臨時棧橋工事費)除却損の計上による増
	計(B)	543,392	355,216	188,176		
	収支①(A-B)		△24,089	△865	△23,224	
自主事業 (※2)	収入(C)	0	0	0		
	支出(D)	0	0	0		
	収支②(C-D)	0	0	0		
合計収支(①+②)		△24,089	△865	△23,224	(うち県への納付金額19,000千円) (R5) ※3	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

※3 資本費相当額：県が負担した施設の整備費を収益から負担金として納付されている。

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため控えていた県外ポートショーへの出展や広島ポートショーの開催を再開した。</p> <p>免許事業者による免許教室等開催やチャーターボートによる新規ボートینگ顧客の取り込みを図った。</p> <p>広島県からのクルージングコンシェルジュ業務を受託し、情報の発信に努めた。</p> <p>艇置契約につながるプレジャーボートのユーザー化に向け、シースタイルによるレンタル事業を3艇体制で展開するなど、推進・充実を図った。</p> <p>入艇紹介制度を継続し、マリン事業者との情報交換を図るなど、新規入艇のための営業活動を推進した。</p>	<p>コロナ禍で中止になった広島ポートショーの再開や参加を見送っていた県外のポートショーへの出展、クルージングコンシェルジュ業務の実施により、海洋性スポーツの振興及びレクリエーション活動の普及並びに施設の知名度向上を図っている。</p> <p>新規入艇促進のため、免許教室等の開催やチャーターボート及びレンタル事業の推進、マリン事業者との情報交換等様々な取組を行っている。</p>
	○業務の実施による、県民サービスの向上		
	○業務の実施による、施設の利用促進		
	○施設の維持管理		
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	<p>広島観音マリーナと広島地域マリーナ施設を総括的に部門責任者が統括し、経営判断を早め、新規契約の増加や解約防止の推進に取り組んだ。</p> <p>老朽化した施設部分の緊急修繕費を捻出するため、広告宣伝費等の圧縮を行い、緊急対策としては、社有艇の売却を行った。</p>	<p>広島観音マリーナと広島地域マリーナ施設を部門責任者が総括することで、経営判断を早め、新規入艇及び退艇防止の推進に取り組んでいる。</p>
	○効率的な業務運営		
	○収支の適正		
総括		<p>大型艇のシングルバース整備と周知を行い更なる入艇増を図った。</p> <p>管理経費の抑制に努め、効率的な施設運営に取り組んでいる。</p>	<p>施設の老朽化に対応するため、広告費等を圧縮して緊急修繕費を捻出する等、管理経費の抑制に努めている。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型艇誘致を含む収容艇数の維持増大 ○ 海上新Bバースの周知と予約促進 ○ ボート免許事業者との連携による受講者へのマリンレジャーへの取り込み動機付けの推進 ○ チャーター事業、レンタル事業及びマリーナアライアンス事業の活用による、クルージング需要の訴求 	<p>令和5年度に供用開始した大型艇シングルバース（新Bバース）を始めとする指定管理施設の利用促進についての取組への協力を行う。</p>
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な施設の維持管理及び更新の調整 ○ 海上保管を敬遠する地域性から陸上保管は満艇である。海上保管の利便性、経済性などの差別化と県外需要の訴求 ○ マリーナの魅力発信による利用拡大 ホームページを活用してモノ（施設・設備）訴求からコト（楽しさ・安全）訴求による幅広い層への訴求力向上と誘因力を強化する。 ○ 広島エリアにおけるマリンレジャー中核拠点として、広島の魅力向上と観光需要の拡大 ○ ボート免許から所有・保管に至るまでの安心・安全なサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定管理者と連携を図りながら、施設の更新及び修繕計画の策定を行う。 ○ 経営基盤強化のための保有・管理資産の活用及び県民に対する海洋性スポーツの振興及びレクリエーション活動の普及に向けた取組への協力を行う。